

自分を好きになる

発行日 令和2年 1月10日

◎3学期始業式

令和2年、昇降口で毎日送り迎えをしてくれるダルマの色は、昨年と同じ「夢を実現する」オレンジですが、令和バージョンは、背中に金文字で「坂中生よ 大志を抱け」と書かれています。自分自身の夢の実現に向かって努力を積み重ねていきましょう。



◎校長講話より

「坂中生よ 大志を抱けⅣ 「学問ノススメ (学ぶということ)」

あけましておめでとうございます。令和2年の始まりです。よい年にしましょう。

さて、校長講話でも、1年を通して坂城に生まれた先人を紹介しながら、君たちに志を高く持ってほしいとお願いしてきました。今年の3月の春休みには、2年生の代表の人がアメリカシリコンバレーへ教育視察に行きます。多くの人の応募があり、関心の高さが伺えます。アメリカに行き、異文化に触れ、自分の将来に生かそうとする志の高い人が大勢いたことを心強く思います。

ここに1冊の本があります。タイトルは「横書き学問ノススメ」です。春に図書委員会が企画した先生方からの紹介本でも校長先生が薦めた本です。「学問ノススメ」を書いた人は皆さんも歴史で習ったでしょうか、江戸時代が終わり、新しい日本を作り上げる明治時代、活躍した福沢諭吉で、1万円札の肖像画でも有名な学者です。この本は、当時書かれた「学問ノススメ」をわかりやすい現代語訳にした本ですが、その中に「学問を身につけるということ」という一節があります。紹介します。

学問とは、本を読むだけで十分でないことは、すでに君も気づいていることで、今さらあれこれ言う必要はないだろう。学問の核心はただ学ぶというだけでなく、いかにそれを活用できるかにかかっているのだ。繰り返すが、現実に活用できない学問は、もはや学問とは言えないのだ。

例を出そう。昔、朱子学を学ぶ書生がいた。故郷を離れ江戸に長く滞在し、さまざまな朱子学の流派の諸先生の学説を聞き、それを何も考えずただひたすら丹念に書き取って記録した。日夜、努力を怠らず、数年間でその記録は数百巻にもなった。

そこで、これで学問の道も成就したと考えて、故郷に帰ることを決意した。自分は東海道を下り、写した記録は船便で回送することにしたのだが、不幸なことに、その船が遠州灘で沈んでしまったのだ。

この書生は、無事に故郷に着いたのに、学んだ記録は全て海の中に流されてしまったのだ。となると、この書生は何も身につけることなく帰郷したということで、江戸に出向く前と何ら成長していないことになる。

どうでしょう。今スマホやインターネットが普及し、心配されていることは、「調べる人は増えて、考える人が減るのでは」ということです。わからないことがあると昔は辞書を調べたり、本で調べたりしましたが、今はスマホなどがあり、簡単に検索できます。しかし、調べた後、それはどういうことを意味するのか、自分で考えをめぐらさないと、自分に身にはつかず、すぐに忘れてしまいます。

今、求められている力は、まさに、単なる知識・理解力ではなく、得た知識をいかに生活に活用するか、また、新たな事柄を考え出す活用力・創造力なのです。

「学問ノススメ」で福沢諭吉は次のように続けています。

やはり学問の核心は、本を読むことだけにあるのではなく、精神の働きにあるのだと私は思う。この精神の働きを社会に活用して実践するには、様々な創意工夫が必要だ。

例えば、「オブザベーション(物事を観察すること)」「リーズニング(物事の道理を探究して自説を形作ること)」が実際の工夫の代表例だが、この二つだけで学問研究の方法を尽くしたといえるものではない。

さらに、多くの本を読み、多くの本を書き、人と議論し、人前で自説を述べるということもしなければならぬ。これらすべて手段を尽くして、初めて学問に取り組む人間といえるのだ。

すなわち、観察・探究・読書によって知識を累積し、議論によって知識を人と取り交わし、著作・演説は自分の知見を人に広めること、これら一連のことが学問なのである。

ただし、これらの中でも一人でできることは観察・探究・読書で、議論と演説については人と共に共同でなされるものである。と

現代で求められている学力は、今から 100 年以上前の明治時代、福沢諭吉が言い当てています。高校入試問題も単なるどれだけの知識を覚えているかという知識理解を問う問題は減り、知識と知識を結びどう考えるのか、という活用力が問われています。また、授業スタイルも講義形式の授業から自分たちで考え、議論することにより、考えを深める「主体的・対話的で深い学び」が求められています。

さて、君たちは、未来に生きる青少年です。3年生は高校入試まであと2か月、卒業まではあと3か月です。また、2年生も生徒会を引き継ぎ、坂中をリードする準備をしています。また、4月からは新入生も入学し、1年生も先輩と呼ばれるようになります。

先ほど言った学問の核心、自分で考え、行動するためには最も必要なことは、自分の志です。人に言われてやるのではなく、自分の夢を持ち、その夢の実現の為に自ら目標を立て、一步一步実践していくことが大切です。

これからの3学期、短いですが来年度に向けて大切な学期となります。自分の志のもと、自分の目標を明確に持ち、着実に前進していく学期にしましょう。

以上で、新年に当たっての校長講話とします。全校で坂中の未来に向けて進んでいきましょう。

保護者の皆様 令和の元号に慣れてきた今日この頃です。この年末年始休業中に何か気になるようなことがございましたら、なんなりとお知らせください。